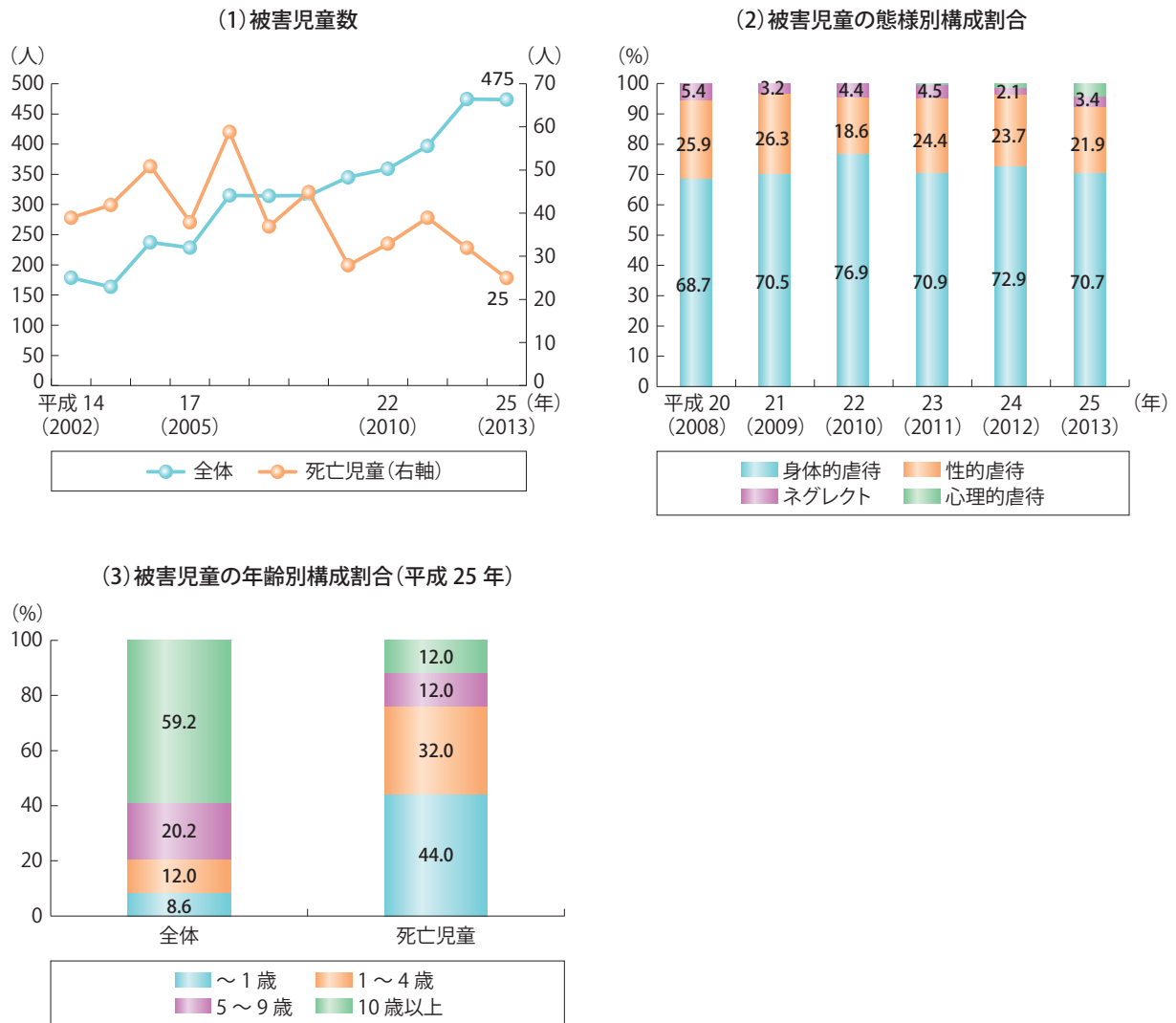


(児童虐待事件検挙件数)

○警察が検挙した児童虐待事件も、増加傾向。(図表 50)

図表 50 警察が検挙した児童虐待事件



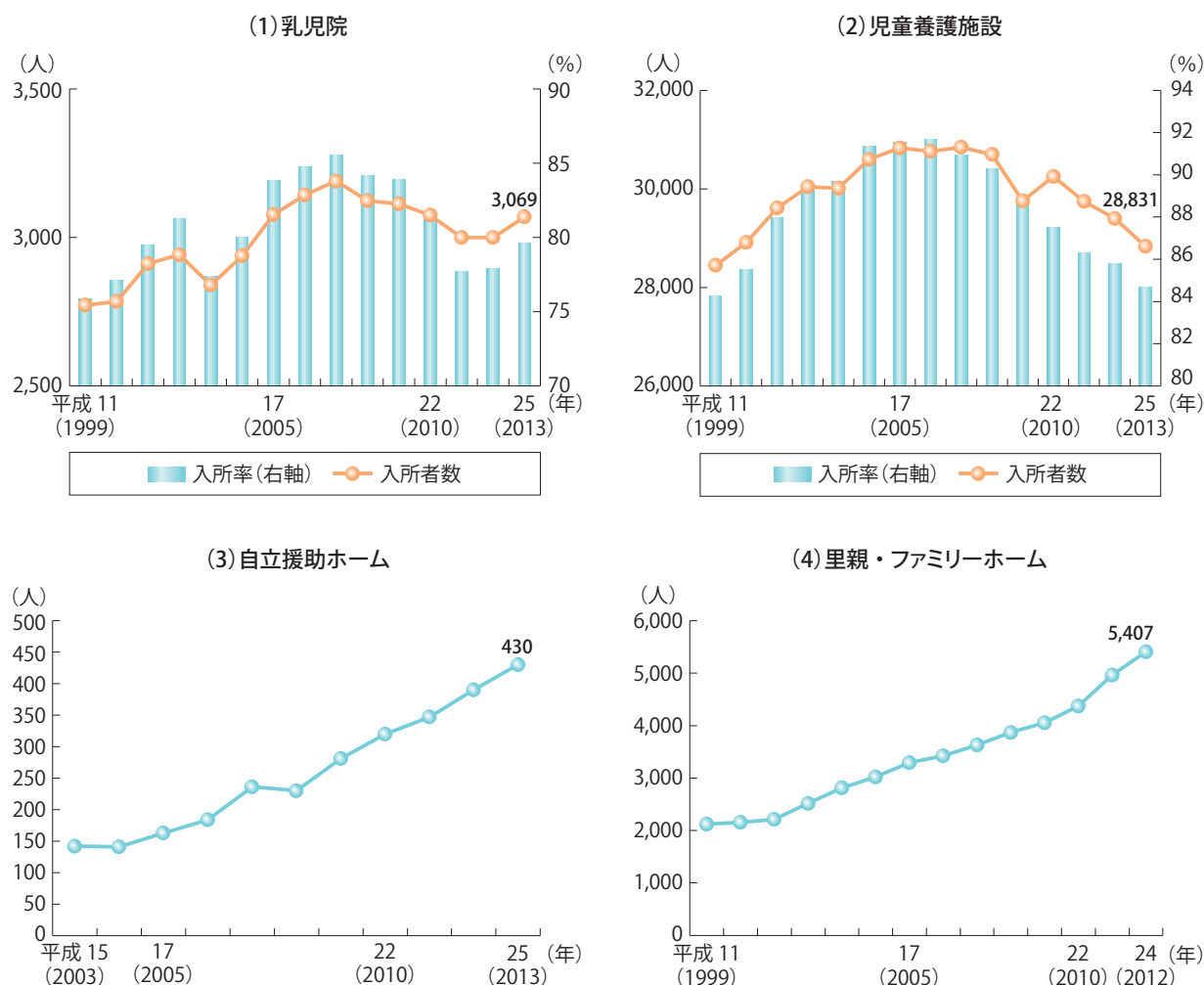
(出典) 警察庁「少年の補導及び保護の概況」[児童虐待及び児童ポルノ事犯の検挙状況等]
 (注) 上記の数値には、いわゆる無理心中や、出産直後の殺人と遺棄を含まない。

3 児童養護施設入所児童等の状況

(入所・委託児童数)

○乳児院と児童養護施設は減少傾向、自立援助ホームと里親等委託は増加。(図表51)

図表51 児童養護施設等への入所者数



(出典) 厚生労働省「社会福祉施設等調査報告」「福祉行政報告例」等

(注) 1. 入所率とは、入所児童定員数に占める入所児童数の割合。平成18年以降は在所者数不詳を除いた定員数で計算している。

2. 乳児院と児童養護施設の数値は平成21年までは「社会福祉施設等調査報告」から、平成22年以降は厚生労働省調べ。里親・ファミリーホームの数値は「福祉行政報告例」(ただし、平成22年は厚生労働省調べ)。

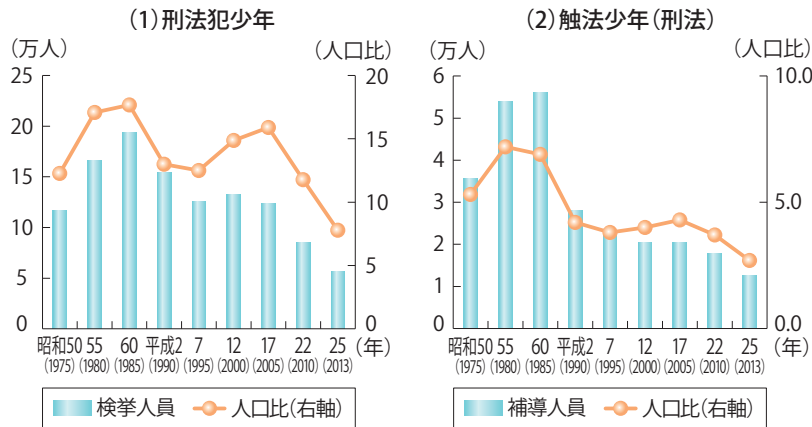
第3節 非行・問題行動

1 犯罪少年，触法少年，ぐ犯少年

○刑法犯少年と触法少年（刑法）の検挙人員・補導人員は減少傾向。(図表52)

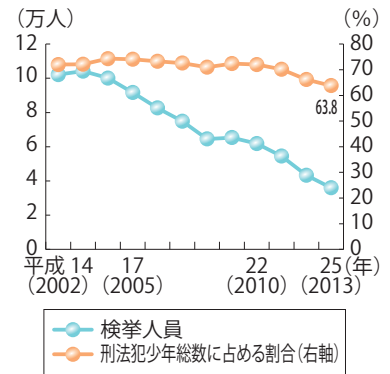
○初発型非行（万引き，自転車盗，オートバイ盗，占有離脱物横領の4罪種をいう。）の検挙人員はこの10年で減少傾向。(図表53)

図表 52 刑法犯少年等の検挙・補導人員



(出典) 警察庁「少年の補導及び保護の概況」「少年非行情勢」
(注) 人口比とは、当該年齢層の人口1,000人当たりの人員数(触法少年については10歳～13歳の人口で算出)。

図表 53 初発型非行の検挙人員



(出典) 警察庁「少年の補導及び保護の概況」「少年非行情勢」

2 問題行動

(薬物乱用)

○覚醒剤事犯、大麻事犯で検挙した30歳未満の者は、いずれも減少傾向。(図表54)

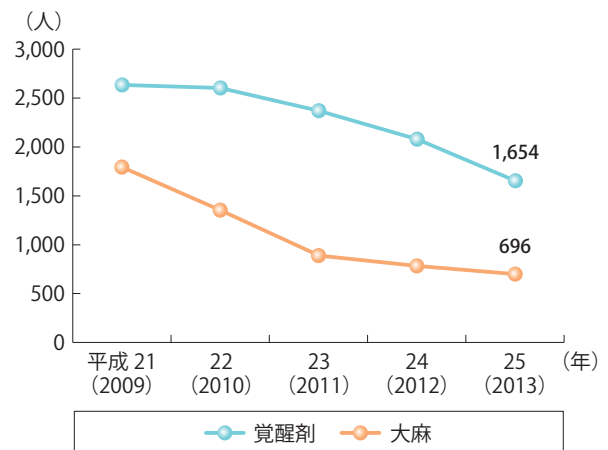
(不良行為)

○警察が補導した不良行為少年は、深夜はいかいと喫煙が大部分。近年は深夜はいかひの割合が上昇。(図表55)

(家庭内暴力)

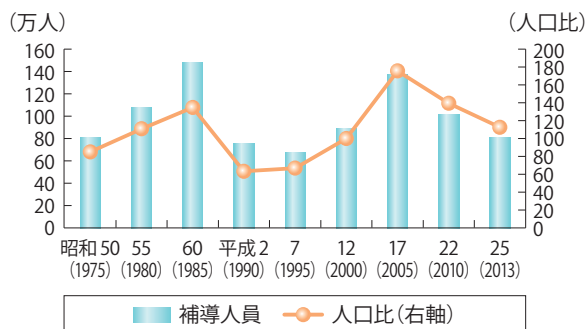
○警察が認知した家庭内暴力は、この数年で急増。中学生の割合が多い。(図表56)

図表 54 薬物乱用で検挙された30歳未満の者



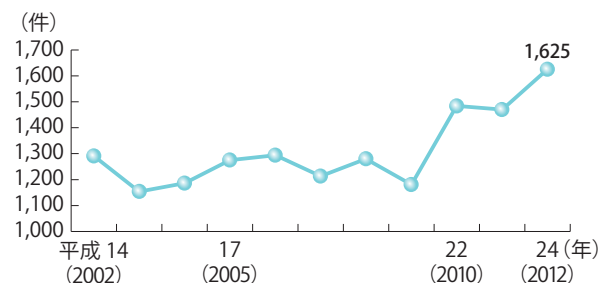
(出典) 警察庁「薬物・銃器情勢」

図表 55 不良行為による補導人員



(出典) 警察庁「少年の補導及び保護の概況」「少年非行情勢」
(注) 人口比は、14～19歳の人口1,000人当たりの人員数で算出。

図表 56 家庭内暴力の認知件数



(出典) 警察庁「少年の補導及び保護の概況」